

全国学力・学習状況調査 稲築西義務教育学校(前期)

1 調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 学校における学力向上に向けての取組

- 国語科・算数科とも、「書く活動」を位置づける際には「なぜ」「どうして」「どのように」「どうすれば」などの児童が思考を働かせる観点を明確にした発問を意図的に行い、考えたこと・伝えたいことなどを書くようにする。また、学習の振り返りでは、「分かったこと」「できるようになったこと」「わからなかったこと」「もっと知りたいこと」などを具体的に書かせるようする。
- 算数科では、知識・技能の定着を図るために、毎時間のまとめでは、練習問題やAIドリルを活用した問題に取り組ませ、形成的評価を重視した児童の学びの見とりを丁寧に行う。また、各学年各単元の終末における習熟段階で指導方法工夫改善教員等を活用した個別指導を充実させる。
- 基礎基本の定着を図るために、国語科と算数科において、単元テストにおいて、80点以上の通過率80%以上を達成できるようにしていく。単元テストの結果から、80点未満の児童を対象に補充学習や再テスト等を行い、着実に学習内容を定着させる。
- CD層の児童には、朝の活動の時間を活用して読解力や計算力の向上を図る個別の取り組みを行っていく。
- 家庭学習(特に週末課題)では、AIドリル等を活用し個に応じた課題に取り組ませる。

3 調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国 語	算 数
本校	90.4	81.7
嘉麻市	91.5	83.9
全国	100	100

推移



4 各学校における分析

○国語科・算数科とともに、指標としている全国平均に達することができなかった。児童は、朝の活動の時間を活用して読解力や計算力の向上を図る個別の取り組みや、家庭学習(特に週末課題)では、AIドリル等を活用し個に応じた課題に取り組んできたが、CD層の割合を減少させることはできなかった。

○国語科では、A・B層の割合が増加したが、D層も増えた。A・B層が増加した原因は、「書く活動」を位置づけ、「なぜ」「どうして」「どのように」「どうすれば」などの児童が思考を働かせる観点を明確にした発問を行い、自分の考えを書く時間を確保することで、目的に応じて詳しく書いたり、文書と図表などを結び付けて書いたりすることが、「書く」能力の育成につながったと考えられる。しかし、D層の児童は記述問題に対して、無回答の児童が多く、問題や条件を把握することや、書くことに苦手意識を持つ児童が多いことが考えられる。

○算数科では、A・B層の割合が減少し、D層の割合が増えた。知識・技能の定着を図るために、毎時間のまとめで練習問題やAIドリルを活用した問題に取り組んだり、形成的評価を重視した児童の学びの見とりを丁寧に行ったりしたことで、全国の平均正答率に近づいたが、思考力・判断力・表現力に課題が見られた。特に、CD層の児童は、適切なグラフを選択して増減を判断した理由や、複合図形の面積を基本図形に分割して求める方法について式や言葉を用いて記述することに課題が見られた。

5 各学校における今後の取組

○国語科では、自分の考えを書くことへの苦手意識を払拭することができるよう、説明文や物語文などから分かったことや考えたことなどについて、文(文章)の書き方の枠組みをもとに書いたり、自他の考えの交流をもとに付加・修正したりする活動を設定する。また、書く活動を設定する際には、思考力・判断力・表現力を育成するために、条件を設定して書くようにする。

○算数科では、思考力・判断力・表現力を育むために、自分の考えの理由や根拠を図や式、言葉と関連させながら書く活動を設定し、自分の考えを友達と交流しながら、自他の考えを比較したり自分の考えを付加・修正したりできるようにする。

○算数科では、基礎基本の定着を図るために、終末段階で練習問題やAIドリルに取り組み、形成的評価を重視した児童の学びの見とりを丁寧に行う。また、単元末における習熟段階で指導方法工夫改善教員等を活用した個別指導を充実させる。単元テストにおいて、80点以上の通過率を85%以上と設定し、80点未満の児童を対象に補充学習や再テスト等を行う。

○CD層の児童には、基礎基本の定着を図るために、朝の活動で「10ミニ+α」やAIドリル等に取り組み、指導方法工夫改善教員や専科教員が個別の指導を繰り返し行う。また、家庭学習でも、AIドリルを活用して個に応じた課題(既習内容を含む)に繰り返し取り組む。

6 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

○子どもが進んで問題解決を図る授業づくりを推進することで、主体的に取り組む態度とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

○小・中・義務教育学校とも、単元テストをもとに短いスパンで評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見るとともに、個に応じた授業づくりを推進し、C・D層の子どもの学力向上を図る。

○家庭学習の充実や帯学習の取組など、組織的な学力向上の取組を構築することを通して、基礎基本の定着を図る。